



安城市初の女性機能別団員

家庭、仕事、消防団。充実しています!!

今年度、新たに女性の機能別団員が誕生しました。機能別団員は、通常火災の消火活動を行うのではなく、大規模災害時に救助活動や被害情報収集等を行い、平常時は消防団のPR活動や火災予防の啓発活動を行います。2人に入団のきっかけや活動について伺いました。

問▶危機管理課(☎71)2220)

地元の役に立ちたい

―入団の経緯を教えてください。

澤端 昨年の4月、埼玉から生まれ育った安城に引っ越してきました。埼玉でも一年間、地元の女性消防団に所属していたんです。安城でも何か地域の役に立ちたいという思いがあったのと、子どもも少し大きくなってきて、多少なら家を空けられるようになってきたので、安城に戻ってきてすぐに入団しました。

―「消防団員」でなく「機能別団員」を選んだのはなぜですか。

澤端 一度安城の外に出て暮らしていたため、より「安城についていいところだな」という思いが強くなっていったんですね。機能別団員の任務の一つに広報活動があるということを知り、その中で安城の良さを人に伝えることができるのではないかなと思って機能別団員を選びました。

―家庭、育児、団員活動の両立はどのようにされていますか。

澤端 機能別団員の活動は、毎月一回の自由参加での救助訓練、同じく毎月一回半日程度、もう1人の女性機能別団員の高橋さんと防災イベント等に向けた準備作業をしています。昨年の秋からパートを始めたところですが、時間的にも余裕を持って団員活動をこなせています。

毎日がぐっと刺激的に

―昨年4月の入団から、どんな団員活動を送ってきましたか。

澤端 6月に行われた市消防操法競練会

会社が強力にバックアップ

―会社が団員活動に協力的だそうですね。

高橋 はい。高棚町の障害福祉サービス事業をしている会社に勤めているのですが、実は社長も機能別団員なんです。社長がとても熱心に、そして楽しそうに団員活動に取り組んでいるのを見ていたのと、会社からの強力なプッシュもあり、私も機能別団員になることを決めました。個人的にマルチコプターを操縦してみたかったのも理由の一つです(笑)。

―仕事と団員活動の両立は大変ですか。

高橋 私は障害のある方のお宅で入浴や食事、外出等の支援を行うヘルパーをしています。仕事が夜遅くまでかかることもありますが、団員活動は月1回の半日程度、仕事の休みに合わせて行っています。その他に、県のラジオ番組に出演したり、市のイベントに出たりと不定期の活動があります。仕事や家庭にしわ寄せがいかないような日程で活動しています。

期待される女性団員

―介護福祉士という資格は機能別団員の活動に生かせそうですか。

高橋 平常時は広報や啓発活動が中心ですが、大規模災害時には、障害のある方が避難所に避難されたときの支援にも携われたいと思っています。

啓発活動は大切な任務の一つです。勤務先の会社が運営する障害児施設に地元の消防団が来てくれたことがあったのですが、団員が車椅子の子どもを抱き上げ



澤端有月さん(44歳・桜井町)

で、ブースを出して団員の家族や子ども達に楽しんでもらったり、10月の市総合防災訓練では子ども達に向けて防災をテーマにパネルシアターを披露したりしました。子ども達が笑ってくれたり真剣に話を聞いてくれる姿がとても嬉しくて。一番のやりがいですね。

―機能別団員になって変わったことは。

澤端 多くの仲間ができたことですね。18年間安城を離れていたのですが、まちの様子が様変わりしていて驚いたのですが、機能別団員の仲間からまちのいろいろな情報を教えてもらっています。また救助訓練では、エンジンカッター等普通では触ることのない機材を扱えたりと、すごく刺激的です。団員活動は日々の生活の活力につながっています。

これからもずっと機能別団員として活動し、市内の子ども達に防災の大切さを伝えていきたいですね。



市総合防災訓練でパネルシアターを披露

て消防車に乗せてくれ、子ども達は大喜び!消防団に親しみを感じてもらえるようになりました。障害のある方と地域の結びつきが強まるのは、団員としてもヘルパーとしてもとても嬉しいですね。

―まだまだ少ない女性団員として、大きな期待を寄せられていますね。

高橋 県の消防学校で、県内の女性消防団員と一緒に一日学ぶ機会があったのですが、他市と比べて、安城市は市をあげて女性団員を育成し、バックアップしていく姿勢であることを感じました。

私達の意見や企画を積極的に取り入れてくれたり、多くの活躍の場を与えてくれたり、団員活動と日常生活の両立に配慮した年間スケジュールを組んでくれたりと、恵まれた環境で活動できています。女性機能別団員はまだ私を含め2人しかいません。興味のある方がいたら、ぜひ一緒に活動しましょう!



高橋扶美子さん(38歳・安城町)

安城市の機能別団員

安城市消防団は、平成28年に機能別団員制度を発足し、平成30年度までに90名(現在60名、次年度30名の機能別団員を任命予定)です。

安城市の機能別団員の特徴は、大規模災害時に備えた活動だけではなく、平常時の活動を活発に実施していることです。

大規模災害時に救助活動ができるよう、エンジンカッターやチェーンソー、ジャッキ等についての知識と操作方法を習得するための訓練を重ねる他、情報収集を目的としたマルチコプター操作訓練を継続的に実施しています。女性機能別団員は特に、消防団加入啓発活動や防災教育に力を入れて活動しています。

消防団員数 404名(うち女性11名)
機能別団員数60名(うち女性2名)
※平成29年4月1日現在。



▲防災教室の準備作業

▶マルチコプター操縦訓練

消防団に入りませんか

●入団要件 18歳以上の市内在住・在勤者で、機能別団員に限り①②いずれかに該当する人

①消防団員の経験のある人
②消防団員の経験はないが、特殊な技能を有していると消防団長が認めた人

※福祉・医療関係の仕事をしている人、広報活動が得意な人、重機等を操作できる人等。

●職務報酬

消防団員↓年額3万7600円〜16万7900円

機能別団員↓年額1万8800円

●費用弁償

●行事・訓練への参加及び4時間以内の災害活動時↓日額3500円
●4時間超の災害活動時↓日額7000円

●退職報償金(3年以上の勤続者対象)12万8000円〜97万9000円

※機能別団員への退職報償金はありません。

※その他に活動中の負傷に対する公務災害補償等有り。

●平成30年度入団の申込み・問合せ 1月末までに市危機管理課(☎71)2220)又は安城消防署消防団係(☎75)2001)へ
※活動の見学も可。